史林

第37巻　第2号　　史学・地理学・考古学

固有信仰の展開と仏教受容……高取正男（1）
チャムパの名に探る……杉本直治郎（17）
——インド早期移民の故郷——
神仏関係の一考察……田村円澄（38）
都市貴族の起源について……鯖田豊之（49）
——中世都市成立論と関連して——
城下町の人口構成……矢守一彦（64）
——彦根藩の歴史地理的研究 I——

資料紹介

肥前永田遺蹟弥生式甕棺伴出の鏡と刀……坪井清足・金関恕（79）

書　評

田村実造・小林行雄：慶陵……小野勝年（82）
堀一郎：我が国民間信仰史の研究……竹田聽洲（84）
宇都宮清吉：僮約研究……西村元佑（87）
Erich. Otemba: Allgemeine Agrar-und Industrie-geographie……浮田典良（90）
最近の日本考古学の発掘報告書……小林行雄ほか（94）

学界消息

史学研究会

京都大学文学部内

東洋史研究

一九五四年四月十日印刷
一九五四年四月十五日発行

京都大學文學部東洋史研究室
東洋史研究會
振替口座京都三七二八番

たといわれる太子[2]は、飛鳥貴族の信仰を如実に代表しているのではなかろうか。当代にあつては、現当二世の安楽を約束してくれる仏は、「仏神者恐者ニアリケリ」[3]といわれるほど強烈な霊威力をもつていたのである。それ故、六二四年に既に僧綱を設け、自己のもとに僧団を編成しつつ、着々と地上の権威を整備して行つた天皇が、大化改新をなしとげたとき、家永博士の説かれる仏法の第一次衰退期[4]に入つたのも当然であろう。即ち、族長貴族たちは確立された律令的古代天皇制のもとに官僚貴族として自らの地位を見出し、天御中主神以下の優れて理念的な神々を頂点に置き、[5]それ故に国土山川全てを包摂しうるよう記紀神統譜の最後的改編を行つた。そして、それなりに自己の権威と主導権を確認した彼等にとつて、仏法もまた彼等の世界の守護者となり、いわゆる官寺仏教として姿をととのえて行つたのである。従つて逆にいえば、推古朝前後の仏法興隆は、自らを律令制下の官僚貴族に転化さすかしないかの竿頭に立たされた、族長貴族たちの苦悩の側面であつたともいえよう。

① 天寿国曼荼羅繍帳
② 姉崎正治博士、聖徳太子の大士理想
③ 元興寺伽藍縁起
④ 家永三郎博士、飛鳥寧楽朝に於ける仏法興隆運動（上代仏教思想史研究）
⑤ 津田左右吉博士、日本古典の研究上

史学研究会例会

日　時　四月廿四日（土）午後一時
場　所　京都大学楽友会館（市電近衛通下車）
講師並に演題
地域研究における二、三の方向　岩田慶治氏
中央アジアの遊牧民と農耕民　羽田明氏

⑭ C. Sainson, *Mémoires sur l'Annam*. Péking, 1896, p. 537.
⑮ *Excursions et Reconnaissances*. Saigon, 1885, No. 24, p. 235.
⑯ J. Y. Claeys, *Feuilles de Trà-kiệu*. *BEFEO*., Hanoï, 1928, XXVII, pp. 468～479.
⑰ 拙稿「三国時代における呉の対南策」(『東洋の政治経済』東京、1949, pp. 120～121.)
⑱ Yule & Cordier, *The Book of Ser Marco Polo*. London, 1929, vol. I, p. 91, n. 1.
⑲ Malalasekera, *op. cit.* R. C. Majumdar, *Ancient Indian Colonies in the Far East*. vol. I, *Champa*. Lahore, 1927, p. xi. G. Coedès, *Les états hindouisés d'Indochine et d'Indonésie*. Paris, 1948, p. 57.
なお荻原弘明氏「朱江国考」(鹿児島大学『文科報告』第一号、1952, p.52.)のうちにも、またインドのチャムパーと東方諸国との関係を考える上に、役立つものがないではない。
⑳ 拙稿「インドシナ古代社会の史的性格」(『東洋の社会』東京、1948, pp. 88～130.)
㉑ 前掲拙稿「三国時代における呉の対南策」(『東洋の政治経済』pp. 100～157.)
㉒ Coedès, *op. cit.*
㉓ 『広島大学文学部紀要』第四号、1953.
㉔ 『三正綜覧』には、これまで気付いただけでも、若干の誤があるので、全巻にわたつて、いつかこれを再検討してみたいと思つている。

「史林」隔月刊の実施にあたつて

前号でもお伝え致しましたように、当会では「史林」隔月刊実施のため、鋭意その準備をすすめて参りましたが、本日の評議委員会の結果正式にその実施を決定致しました。戦後の社会的変動の中に、学術雑誌の刊行は極めて困難な状態に追い込まれ、停刊のやむなきに至るものも少くありませんでした。その中にあつて「史林」が細々とは言い条、刊行を継続する事ができ、またここに隔月刊実施を高らかに発表し得る喜をむかえ得ました事は、ひとえに会員諸賢の絶大な御支援の賜物であります。最近斯学の著しい発展は、最早会誌の季刊を以てしては、諸賢の御要望に副い得ぬことを痛感してをりましたが、此処にその責任の一部を果し得たかと考える次第であります。史学、地理学、考古学の諸分野にまたがる綜合学術誌としての伝統を継承すると共に、新なる時代の要請に副い、斯学の学術的水準を高め、且その発展に寄与すべく、「史林」は真に会員諸賢の会誌として、前進して行き度く存じて居ります。この時に当り、今後の御支援と御鞭撻を庶幾してやみません。

昭和廿九年三月三日　　史学研究会

⑧ 同右『愍論弁惑章』一。同右第三、三八三頁。
⑨ 『日本霊異記』下。
⑩ 『類聚国史』廿五、追号天皇。
⑪ 『続日本後紀』承和三年十一月丙寅条。
⑫ 『三代実録』貞観元年八月廿八日条。
⑬ 『守護国界章』下ノ下、『伝教大師全集』第二、六八〇頁。
⑭ 『一心戒文』上、同右第一、五三三頁。
⑮ 『註仁王護国般若波羅蜜経』上、同右第四、六六頁。
⑯ 字井伯寿『仏教汎論』下、三〇五頁。
⑰ 『長講法華経後分略願文』下、『伝教大師全集』第四、二六〇頁。

会員移動

新入会

阿部猛
黒川正宏
国際キリスト教大学図書館　三鷹市大沢一五〇〇
青泉社
田原嗣郎
西垣晴次
Demieville
大野真弓
大庭修
小沢栄一
小野三沙子
黒田俊雄
鯖田豊之
篠崎勝
鈴木俊
辰馬悦蔵
鶴田義郎
鳥山喜一
間野潜龍
三吉希
山本隆義

住所変更

伊藤恒
岩見宏

二月二五日（木）
天工開物とスタンスラス・ジュリタン　簸内　清

西洋史関係

読書会例会
十二月七日（月）陳列館会議室
Emerson and the Agrarian Tradition.　江川　良一
M. Dobb, Studies in the Development of Capitalism.　渡辺　滋
読書会例会
十二月十六日（水）陳列館会議室
H. Frankfort, Kingship and Gods.　山本　茂
E. C. K. Gonner, The Early History of Chartist Movement.　山本　康哉
K. Haff, Zu den Problemen der Agrargeschichte des germanischen Nordens.　中村　幹雄

地理学関係

人文地理学会第四回例会　二月二十日（土）
於京都学芸大学紫郊会館
尾根起伏の計測による丹波山地の面の吟味　水山　高幸
地誌叙述の方法について　辻田右左男

考古学関係

梅原教授の帰国
昨秋パリの国際東洋学会に出席された梅原教授は、イギリス・アメリカを視察の後、二月二三日帰国された。

京大民俗学会例会
（昭和二八年度）
四月二八日（火）後六・三〇—九・〇〇於楽友会館
能登の田ノ神祭について　平山敏治郎
伝承における神職家の権能　池田　源太
六月三十日（火）後六・三〇—九・〇〇於楽友会館
マリノウスキーのフレィザー評伝について　石川　栄吉
古墳時代の葬制について　小林　行雄
十月十三日（火）後六・三〇—九・〇〇於楽友会館
天台の修験道　村山　修一
夏期休暇中の採訪報告
和歌山県伊都郡天野村　柴田　実
福井県三方郡山東村　平山敏治郎
同三方町字神子・字常神　竹田　聽洲
十一月二四月（火）後六・三〇—九・〇〇於楽友会館
川裾祭について　吉田　光邦

執筆者紹介

高取正男　京都大学大学院特別奨学生
杉本直次郎　広島大学教授
田村円澄　西京高校教諭
鯖田豊之　島根大学助手
矢守一彦　京都大学大学院特別研究生
坪井清足　京都大学大学院学生
金関　恕　京都大学大学院特別研究生
小野勝年　奈良国立博物館司書
竹田聽洲　同志社大学講師
西村元佑　京都大学大学院学生
浮田典良　京都大学教養部助手
小林行雄　京都大学講師
樋口隆康　京都大学講師
藤沢真治　京都大学大学院学生
川端真治　京都大学大学院学生
横山浩一　京都大学助手

猪熊兼繁著 **日本生活史** A5判上製 定価二五〇円
猪木正道著 **ロシア革命史** B6判上製 定価二三〇円
森 義宣著 **政治思想史** A5判上製 定価三二〇円
宮本又次著 **日本商業史概論** A5判上製 定価五三〇円
猪熊兼繁著 **法史学** A5判上製 定価二三〇円
―近刊―
金子光介著 **近代西洋文化史概観** A5判上製 予価四五〇円

京都市岡崎町 振替京都2908番
京都市勝寺 **世界思想社**
京都法

本田喜代治編
社会思想史
ブルジョワ革命以降とくに十九世紀後に焦点をしぼり現代日本の実践的課題の見地より動的に解明した思想の社会史。水田洋・本田喜代治・平田清明・横越英一・末永隆甫ほか共同執筆
A5判三〇〇頁 予価三八〇円〒40

南波 浩著
物語文学概説
新しいジャンルとしての物語文学がどのような必然性において形成されたか？ 社会史的観点から作家個人の生き方と関連づけた今日の問題としての平安文学論
A5判三〇〇頁 定価三八〇円〒40

ミネルヴァ書房
京都市中京区柳馬場二条下ル 電話上7248
振替京都8076

編集後記

桜の花が咲く頃までにおとどけしたいと努めましたが、花はあわただしく散つて、はや青葉の季節になりそうです。

花咲爺の灰は花を咲かせ青葉を茂らせますが、このごろは「死の灰」とかいうのが世界中に降るのでないかとさわがれています。私たちの学問も、このはげしい時代のなかで、民衆の智慧が生んだ民話のように、花を咲かせ葉を茂らせるものでありたいと念願せざるをえません。ただそのためには、正しい方法と厳しい実証こそが問題です。本号には期せずして思想・文化関係の論稿があつまりましたが、いずれもこの複雑な問題の解明に一歩前進をもたらすものと信じて、お送りする次第です。

なお一言、史林の発行がいよいよ好調になる方向がみえてきたことを書き添え、なお一層の御声援・御批判をお願いします。（黒田）

一九五四年四月十日 印刷
一九五四年四月十五日 発行
定価 百円
史林（第三七巻、二号）
京都市左京区吉田本町 京都大学文学部内
発行所 史学研究会
振替大阪一四五五六番
京都市下京区七条御所ノ内東町三九
印刷所 中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XXXVII, NO. 2 Apr. 1954

CONTENTS

Articles:

National Beliefs and the Introduction of Buddhism ..... *M. Takatori* (1)

An Inquiry into the Name of Champa in Indo-China ..... *N. Sugimoto* (17)

Short Notices:

Some Remarks on the Relationship between Shintoism and Buddhism ..... *E. Tamura* (38)

A Study of the Origins of the Patriciate in the Medieval Cities ..... *T. Sabata* (49)

Demographic Structure of a Castle-town, Hikone (彦根) ..... *K. Yamori* (64)

Mirror and Sword found in the Yayoi (弥生) Jar-coffin at the Site of Nagata (永田), Saga (佐賀) Prefecture ..... *K. Tsuboi* *H. Kanazeki* (79)

Book Reviews & News

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan